

## 金大中平和フォーラム 2021

### の参加者の皆様へ

#### 友人の諸君!

わたしは、我が友人である、卓越した政治家、ノーベル平和賞受賞者である故・金大中の名前を冠する、このフォーラムへのご招待を喜んでお受けいたします。

今年のフォーラムのテーマは、この惑星を苦しめている危機からの脱出です。過去2年間、我々が目の当たりにしてきたのは、いかに我々の世界が脆いものであるのか、いとも簡単に混乱状態に陥ってしまうのかということです。パンデミックは全ての国が共有する共通の脅威であり、この新しい危機に対しては誰も単独で対処することはできません。

現在の最大の課題はこのおぞましい敵を打ち負かすことですが、同時に今から我々が考えるべきは、パンデミック収束後の生活のあり方です。

これに関してわたしが思い起こすのは、核の脅威との戦いの歴史です。その突破口が開いたのは1980年代の半ばのこと、核が我々の共通の敵、共通の脅威であると認識した時です。米国とソ連邦の両指導者は、核戦争が受け入れられないものであること、核戦争に勝者はいないことを宣言し、レイキャビック会談の後、核兵器廃絶のための最初の条約に署名しました。今では85%の核兵器が破棄されていますが、核の脅威は残っており、人類がこの大量破壊兵器を廃絶させるまで、その脅威が消え去ることはありません。

他の世界的な脅威、つまり、貧困と不平等、水不足、環境悪化と地球温暖化、移民危機なども悪化するばかりです。そして、相互関係を強めた世界にかつてないスピードで広がるパンデミックという危機が再認識されました。

この新しい危機は1国だけで対処できるものではありません。現在、責任をもって難しい決断を迫られているのは各国の政府ですが、将来、その決断は国際社会全体のレベルで行われる必要があります。ポスト・パンデミックの世界が良い方向に向かうのなら、世界戦略、世界全体による一致した努力が不可欠です。

ここでわたしが達した結論は、これが成功するための道は唯一、人々の、そして、特に特別な責任を持つ指導者たちの、意識の大変革が必要である、ということです。

今、認識する必要があるのは、我々のセキュリティの考え方を大きく変える必要があります。これまでのセキュリティは軍事面だけを考えてきました。残念ながら、冷戦終結から、軍事面での変化はほとんど何もありません。最近でも耳にするのは、軍備、ミサイル、攻撃などの言葉ばかりです。

戦争と軍拡競争が現代の世界的問題を解決できないのは今や明らかです。戦争は即ち敗北であり政治の失敗なのです。

今、正面にすえるべきは、ヒューマン・セキュリティなのです。安全とは何よりも、人々に食料、水を与えることであり、人類の環境をまもり、人類の健康を第一に約束することです。ヒューマン・セキュリティのための戦略、準備、計画が必要になります。国家指導者、あらゆるレベルの指導者たちはこの責任を負います。

わたしは何度も繰り返して強調しますが、国際政治と政治思想の“非軍事化”、つまり、軍事的思考からの脱却が必要なのです。

わたしが確信をもって言えるのは、政治的意志の“麻痺”と言えるような状態、政治家と市民社会代表たちが今、論じているものですが、これは倫理的アプローチによってのみ克服が可能なのです。

世界の国々の関係を律するものは、国際法だけではなく、普遍的モラルの原則に基づいた行動ルールのようなものが必要なのです。この“行動ルール”に含まれるものは、抑制、全ての関係者の利益の配慮、状況の悪化と危機の脅威が発生したときの協議と調停などです。もしこのような行動ルールが直接の関与国、そして、第三国によって、とれていれば、多くの危機が回避できていたことを、わたしは全く疑いません。

過去2年間のパンデミック危機を経験した新世代の指導者たちは、自分たちの政治的考え方を見直し、現在よりも深刻な危機と立ち向かった先人たちの経験を振り返ってほしい。

わたしがもう一度喚起する“政治の新思考”が現代においても蘇ってほしい。必要なのは過去と現在との対話であり、過去を知り、将来のための教訓を得ることです。これが変化する世界において求められているのです。

ミハイル・ゴルバチョフ

モスクワ

2021年10月